

国を滅す重い罪

～ 平和への誓い～

【聖書】サムエル記下 24章1～17節

主の怒りが再びイスラエルに対して燃え上がった。主は、「イスラエルとユダの人口を数えよ」とダビデを誘われた。王は直属の軍の司令官ヨアブに命じた。「ダンからベエル・シェバに及びイスラエルの全部族の間を巡って民の数を調べよ。民の数を知りたい。」ヨアブは王に言った。「あなたの神、主がこの民を百倍にも増やしてくださいますように。主君、王御自身がそれを直接目にされますように。主君、王はなぜ、このようなことを望まれるのですか。」

しかし、ヨアブと軍の長たちに対する王の命令は厳しかったので、ヨアブと軍の長たちはダビデの前を辞し、イスラエルの民を数えるために出発した。彼らはヨルダン川を渡って、アロエルとガドの谷間の町から始め、更にヤゼルを目指し、ギレアドに入って、ヘト人の地カデシュに至り、ダン・ヤアンからシドンに回った。彼らはティルス要塞に入り、ヒビ人、カナン人の町をことごとく巡ってユダのネゲブの、ベエル・シェバに至った。彼らは九か月と二十日をかけて全国を巡った後、エルサレムに帰還した。ヨアブは調べた民の数を王に報告した。剣を取りうる戦士はイスラエルに八十万、ユダに五十万であった。

民を数えたことはダビデの心に呵責となった。ダビデは主に言った。「わたしは重い罪を犯しました。主よ、どうか僕の悪をお見逃しください。大変愚かなことをしました。」ダビデが朝起きると、神の言葉がダビデの預言者であり先見者であるガドに臨んでいた。「行ってダビデに告げよ。主はこう言われる。『わたしはあなたに三つの事を示す。その一つを選ぶがよい。わたしはそれを実行する』と。」

ガドはダビデのもとに来て告げた。「七年間の飢饉があなたの国を襲うことか、あなたが三か月間敵に追われて逃げる事か、三日間あなたの国に疫病が起こることか。よく考えて、わたしを遣わされた方にどうお答えすべきか、決めてください。」ダビデはガドに言った。「大変な苦しみだ。主の御手にかかって倒れよう。主の慈悲は大きい。人間の手にはかかりたくない。」

主は、その朝から定められた日数の間、イスラエルに疫病をもたらされた。ダンからベエル・シェバまでの民のうち七万人が死んだ。御使いはその手をエルサレムに伸ばして、これを滅ぼそうとしたが、主はこの災いを思い返され、民を滅ぼそうとする御使いに言われた。「もう十分だ。その手を下ろせ。」主の使いはエブス人アラウナの麦打ち場の傍らにいた。

【序】ダビデを駆り立てた重い罪

教会学校の聖書の学びは、6月・7月とイスラエルの歴史上最も偉大な王といわれたダビデでした。今日はその最終回です。彼はイエス・キリストの先祖で、紀元前1000年頃、30才で先ずユダの王になり、7年半後にイスラエル全12部族の王となって33年間ユダとイスラエル全土を統治しました。

ダビデの大きな**特色**は、主なる神に対する**深い恐れ**と単純な**信仰**です。彼の信仰は羊飼いをしていた少年時代に養われました。羊を襲う獅子や熊と杖一本で戦う中で、**神の守りへの確信**を体得したのです。サウル王に見出されて家臣となり、目覚ましい手柄を次々とたてました。すると**王位を脅かす危険人物**とみなされて、サウル王から國中を追い回される身になります。しかし逃亡中に王を殺す機会が二度もあったのに、「**主が油を注がれた王**を殺すことは、主が御許しにならない」と固く信じて、逃げ続けました。そしてサウル王親子がペリシテとの戦いに敗れて戦死した後で、やっとユダに戻って、王位についたのでした。

その一方で、女性に対する**道徳感**となりますと、**一夫多妻**が当時の社会の習いだとはいえ、**実に** **だらしない生涯**を送っています。また**息子たちの教育**についても、父親としては**失格者**でした。ダビデの息子はヘブロン時代に6人、エルサレム時代に11人誕生しましたが、**まともに成人したのは彼の王位を継いだ10番目のソロモン**だけのようです。**仕事と浮気**に忙しくて子育ては母親まかせで70才まで40年間王位に就いていたからでしょうか。でも神さまは、**ダビデ**をその短所、罪の故に**切り捨ててしまわず**、70年も生きることを許して**神の業**をおさせになったのでした。

このダビデ王についての**締めくくりの学び**を致しましょう。全イスラエルの**国王**として、地位が確立した時期に彼が犯した**重大な罪**についてです。

[1] 人口調査に込められたダビデの野心

ダビデ王は、軍の司令官ヨアブに命じました。「**イスラエルの全部族の間を巡って民の数を調べよ**」。ヨアブは賛成しませんでした。「王はなぜ、このようなことを望まれるのですか」。しかし**王の命令が厳しかった**ので、ヨアブと軍の長たちは9ヶ月と20日をかけて全国を巡り、調べた民の数を王に報告しました。**剣を取りうる戦士**がイスラエルに80万、ユダに50万でした。

ところが10節をご覧ください。「**民を数えたことはダビデの心に呵責**となった。ダビデは主に言った。『わたしは**重い罪**を犯しました。主よ、どうか**僕の悪**をお見逃してください。**大変愚かなこと**をしました』」。軍の司令官に行わせた10ヶ月近くにわたる人口調査の間に、彼は次第に冷静さを取り戻して、自分が愚かにも**重大な罪**を犯していたことに気付かされたのです。この人口調査のどこが**重大な罪**だったのでしょうか。皆さんは、どうお考えになりますか？

人口調査というものは、通常税金徴収の基礎資料として行われると思います。そして、産業・経済の活性化とか福祉等の民生の政策推進とか、**国王としてより良い行政**を行うためになされていくと考えられます。ところがダビデは、**剣を取りうる戦士の数**を把握しようとしたのです。ですから政府の役人たちにではなく、ヨアブに命じて、**軍を動員**して調査させたのでした。

ではダビデは、何故**徴兵計画**の資料を得ようとしたのでしょうか。軍の総司令官ヨアブをはじめ、司令官たちは反対しています。それは恐らく、ユダとイスラエル全部族を統治するダビデの**王権が確立し、一段落**したことを現していると思います。ペリシテを始め周辺の諸民族は、当然ダビデ王国の強大化を抑えようとして、**軍事的抗争**が続いたことでしょう。しかしヨアブ以下の軍部が頑張って、これまでにないイスラエル王国が確立したのです。「王様、もうこれで**十分ではありませんか**」。この思いが司令官ヨアブの言葉から響いてきます。

しかしダビデの態度は、**強硬**で厳しいものでした。どうしてでしょうか？ 恐らくダビデはこの時、**大いなる王国への野望**に駆られて、**覇権確立**のため周辺への大がかりな**軍事作戦**の構想を抱き始めていたのではと、私は想像します。

[2] 日本の敗戦をもたらした軍部の独走

私たちは2週間後に、8月15日**敗戦記念日**を迎えます。1945年の4月1日に日本の国土**沖縄**に連合軍が上陸し、総攻撃が行われた3ヶ月間に**24 万余の人**が殺されました。**東京**は3月の大空襲で焼け野原が拡がりました。8月には**広島・長崎**が原爆二発で廃墟と化し、遂に**無条件降伏**。現人神(あらひとがみ)天皇を元首とする**神州不滅の日本**は、惨めにも連合軍に叩きのめされたのでした。

このような惨めな敗戦は、日本の**軍部独走**からもたらされたものです。その発端は私が生まれる前の年、**1931年9月18日**に陸軍が起こした**満州事変**です。奉天郊外の柳条湖で、関東軍が南満州鉄道の線路を爆破し、それを口実にして満州全土(今の中国東北部)を占領、傀儡の皇帝を立てて**満州国**を発足させ、満州・蒙古を中国本土から分離、日本の**支配下**に置きました。そして日本国内では陸軍の強硬派が**5.15 事件**を起こして犬養首相を暗殺し、1933年には満州国を認めない**国際連盟**から日本を**脱退**させてしまいました。

しかも日本陸軍の**野望**は満州だけでは収まりませんでした。1937年7月**盧溝橋事件**を起こして、中国本土の**華北地方**に**侵略を開始**し、更に侵略を**中国全土**に拡げて**中華民国**との**全面戦争**になりました。更に1941年12月8日未明にハワイの米国海軍基地を奇襲攻撃して**米英**に対する**戦争を開始**。米国の植民地**フィリピン**と英国の植民地**マレー半島**に上陸、戦闘を拡げて**マニラ**と**シンガポール**を占領。更に**ビルマ**と**インドネシア**を占領。**インド**にまで侵略して行きました。このように侵略は留まることなく**全アジア**に拡大されていったのでした。

2011年8月13日の新聞に、満州事変以来、日本軍がアジア・太平洋地域で行った**15年戦争**で犠牲になったアジア諸国の**民間人死傷者数**が報じられていました。**中国人 1000 万人、インドネシア人 400 万人、インド人 350 万人、ベトナム人 200 万人、フィリピン人 111 万人、朝鮮半島人 20 万人、ビルマ人 15 万人、シンガポール・マレーシア人 10 万人、総計 2106 万人**。朝鮮半島人が少ないのは、日本軍の兵士・軍属として戦死している人が多いからでしょう。

私たちは5年前の**東日本大震災**の被災者のために毎日曜日に祈り続けてきていますが、その震災による死者行方不明者は**約2万人弱**です。それでも大きな被害を社会全体で受けているのです。としますと**民間人死者総数 2106 万人**とは、東日本大震災の**1000 倍以上**に相当する大被害を、日本軍がアジア諸国に与えたということになります。大震災の大きな辛さを 1000 回以上も**アジア各地**で惹き起こしたのです。何と**大きな罪**を犯したことでしょうか。

軍隊の力が強くなると、武力で近隣を侵略し、己の権威・権力を更に大きく誇示しようとする欲望がこみ上げて来て、歯止めが利かなくなり、遂には**自滅**してしまう——この**恐ろしさ**を、私たち日本人は71年前に痛烈に思い知らされたのではなかったでしょうか。私はこの経験から、今日の**ダビデ**人口調査の記事を読んだのです。

[3] 悔い改めることの出来たダビデ

日本の陸軍が満州を支配しました。そと更に中国全土に侵略を拡大し、次いで東南アジア全域を支配してしまいました。イスラエル2代目の国王ダビデにも、このような野心が強く燃え上がってきたのではないのでしょうか。しかし人口調査をさせていた約10ヶ月の間に、これは間違っている、重い罪を犯そうとしているのだという強い反省が、彼の心に生じてきたのではないのでしょうか。

そして彼は、主なる神に悔い改めの祈りをするようになったのです。ここが信仰者ダビデの優れている点です。そして国を滅ぼしてしまった日本の軍人たちには、この神への畏れと、自らの罪の自覚が全く欠如していたのでした。

神はダビデに三つの裁きを示されました。7年間の飢饉か、3ヶ月敵に追われて逃げ廻るか、3日間の疫病か？どれも大変な苦しみです。でも飢饉の場合は、大きな食糧庫を持つ国王は貧しい民衆より苦しみが軽くて済みます。強力な敵の襲撃にしても、城やヨアブ以下の兵士たちの守りがあります、疫病なら生身の人間として、自分の受ける命の危険と苦しみは民と平等です。ダビデは疫病の裁きを選びました。

するとまず地方から疫病が起り始め、民7万人が死にました。何という恐ろしい神の裁きでしょうか。疫病はいよいよエルサレムの都にも迫ってきました。ダビデは叫びました。「罪を犯したのはわたしです。わたしが悪かったのです。この羊の群れが何をしたのでしょうか。どうか御手がわたしとわたしの父の家に下りますように」。裁きは自分の一家眷族に留めて下さいという願いです。偉いですね。ダビデのこの叫びを聞き、主は「もう十分だ。その手を下ろせ」と御使いにお命じになりました。主はダビデの心からの悔い改めを認めて下さったのでした。

ダビデはエルサレムの郊外、アラウナの麦打ち場を買い取り、祭壇を築いて焼き尽くす捧げ物と和解の捧げ物をささげて礼拝しました。心からの悔い改めと、それを赦して頂けた感謝の祈りとを、捧げたのです。そしてそこに神殿を建てて、常に主なる神に礼拝を捧げつつ、国王としての任務を謙遜に果たしていかなければならないと、あらためて強く自覚しました。

しかし神殿の造営を、主はダビデには許しませんでした。「あなたは多くの血を流し、大きな戦争を繰り返した。わたしの前で多くの血を大地に流したからには、あなたがわたしの名のために神殿を築くことは許されない」(歴代誌上 22:8)。そして彼の息子ソロモン(平和の意)の手によって、彼の志は継がれたのでした。ダビデは在世中に、神殿造営の下準備を十分にしておいて、死にました。

[結] 主の祈りを祈りつつ

羊飼いをしていた少年ダビデ、サウル王に認められて家臣となりながら、王位を脅かす危険人物とみなされて逃げ廻り、ペリシテの王に身をよせて生き延びたダビデ。その彼がサウル王親子の戦死によってユダに帰国し、ユダの王となり、さらに全イスラエルの王にもなって、強力な軍隊を有する権威の頂点に立ちました。不思議な神の導きです。ところが彼は、更に軍事力を強大にして近隣

を制圧し、覇権を確立しようとの**野心**に駆り立てられていき、**神の裁き**を受ける身となりました。国王の野心が**7万人の命**を奪ったのです、何という恐ろしい神の裁きでしょうか。日本の軍国主義者たちは、**3000 万人に及ぶ人命**を奪いました。権力を持つ者はその**責任の重大さ**を胆に銘じなければなりません。

それにしても、ダビデともあろう信仰者が、野心にそそのかされて**悪に駆り立てられていく**とは一人間の弱さ、**罪深さ**を痛感させられます。私たちは**主の祈り**を唱えて生きていますね。「**我らをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ**」。この祈りを**真剣に祈りつつ**、生きていかなければなりません。

神は悔い改めたダビデを**赦し**、7万人の命の代償を背負って生きていくようになさいました。彼は**祭壇**を作って礼拝し、**新しい出発**を始めました。日本政府の大臣たちも**靖国神社**に参拝したり、供物を捧げて戦死者を弔います。それで平和を祈願している積りなのでしょう。権力を託された者を駆り立てていく**覇権への野心**、全アジアの人々を殺しまくった罪の恐ろしさを深く自覚して、**平和の確立**という**第一の使命**の達成を、身を低くして神に請い求めて欲しいものです。

ダビデから 1000 年後に、神は**救い主イエス・キリスト**となって、この世に来て下さいました。そしてキリストは、私たちの罪の裁きをご自分が引き受けて、私に代わり、十字架の死という裁きを受けて、私に**赦されて生きる命**を与えて下さいました。私たちは**キリストの命と引きかえに**、生きることを許されているのです。

罪深い私たちは、**誘惑に弱い者**です。直ぐに罪に引き込まれてしまいます。「**我らをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ**」と祈りつつ、**聖霊の助け**をいただいて、**神の御用に用いられる歩み**をして参りましょう。礼拝を大切に守って信仰を養いつつ、一日一日を生きて参りましょう。

祈ります: 神さま、あのダビデですら、7万人を疫病で死なせる罪を犯してしまいました。罪の誘惑に弱いこの私を、どうかお守り下さい。悔い改める信仰をお与え下さい。礼拝を捧げつつ、あなたに用いられて、一日一日を生きる者にして下さい。我が国日本が二度と戦争の罪を犯さないようにお導き下さい。主イエス・キリストの御名によって祈ります。 アーメン